科目名	感染生体防御機能解析学特論	分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位

担当教員	◎教授　鈴木幸一　　教授　後藤一雄　　教授（兼）　槇村浩一　　准教授　松村　充 講師　黒田雅顕					科目ナンバー	T4C204
課程	博士後期	配当年次	1～2年	配当学期	通年	授業方法	演習

授業の概要	病原体検査学、免疫検査学の知識を駆使し、感染と病原体の定量的な評価と、サイトカインを中心とする炎症反応や抗体などの獲得免疫応答の定量的評価に立脚した、統合的生体防御反応機構の理解を深めるとともに、より鋭敏かつ迅速な病原体検査法、抗体検査法の開発・改良につながる多様な検査方法の深い理解を目標とする。
授業の到達目標	①病原性微生物ごとに異なる自然免疫応答を説明できる。②研究レベルでの病原体や感染経路同定方法の具体例を説明できる。③種々の免疫反応の操作を医療に応用できる可能性について説明できる。④感染症における自然免疫系の初期反応に関する分子生物学的基盤を説明できる。⑤抗菌薬の評価方法としての遺伝子検査技術の応用について説明できる。⑥免疫検査学に必要な迅速診断法の開発・改良について説明できる。

授業計画

回数	担当者		行動目標
1	鈴木　幸一	教　授	自然免疫応答が病原性微生物ごとにどのように異なるかを説明できる。①
2	鈴木　幸一	教　授	自然免疫応答が病原性微生物ごとにどのように異なるかを説明できる。②
3	鈴木　幸一	教　授	自然免疫応答が病原性微生物ごとにどのように異なるかを説明できる。③
4	槇村　浩一	教授（兼）	研究レベルでの病原体や感染経路同定方法の具体例を学び、より理想的な手法に関して考察できる。
5	槇村　浩一	教授（兼）	種々の免疫反応を操作することがどのように医療に応用可能か考察できる。
6	後藤　一雄	教　授	感染症における自然免疫系の初期反応に関する分子生物学的基盤を説明できる。①
7	後藤　一雄	教　授	感染症における自然免疫系の初期反応に関する分子生物学的基盤を説明できる。②
8	後藤　一雄	教　授	感染症における自然免疫系の初期反応に関する分子生物学的基盤を説明できる。③
9	松村　　充	准教授	抗菌薬の評価方法としての遺伝子検査技術の応用について説明できる。①
10	松村　　充	准教授	抗菌薬の評価方法としての遺伝子検査技術の応用について説明できる。②
11	松村　　充	准教授	病原体検査における抗菌薬の活用法の改良を目的として、病原菌に対する抗菌薬の効果について説明できる。①
12	松村　　充	准教授	病原体検査における抗菌薬の活用法の改良を目的として、病原菌に対する抗菌薬の効果について説明できる。②
13	黒田　雅顕	講　師	免疫応答が関与する疾患において、臨床検査が果たす役割を説明できる。
14	黒田　雅顕	講　師	免疫検査学に必要な迅速な診断法の開発・改良について説明できる。
15	黒田　雅顕	講　師	免疫系の統合的理解を深める基礎研究と抗体検査法の改良について説明できる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	随時　指示する。
参考書	随時　指示する。
成績評価の方法および基準	口頭試問70%、授業内課題30%
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。